

世界からのメッセージ

ドイツ大使館

大使からの挨拶



スポーツは私たちを魅了し、心を動かし、感情を揺さぶります。スポーツでは勝者と敗者、喜びと悔しさ、感情と記憶が生まれます。やる側であれ、観る側であれ、スポーツ熱はとどまるところを知りません。スポーツにはまた別の力もあります。交流を生み、文化、言語、生活環境の違いを乗り越えさせてくれるのです。オリンピック・パラリンピック大会のような国際スポーツイベントにこれだけ人が集まるのもゆえなきことではなく、今年交流160年の節目を迎える日独関係で、スポーツが大きな役割を果たすのも当然なのです。

ドイツサッカー・ブンデスリーガでの香川選手や長谷部選手はじめ日本人選手の活躍を考えれば、また、これまでのべ1万人以上の日独の青少年が参加してきた日独スポーツ少年団同時交流を考えれば、その重要な役割は明らかでしょう。オリンピックに向けた日本政府の呼びかけに応じ、ドイツの各チームを受け入れるホストタウンとして名乗りをあげてくださった数多くの自治体の熱心な取組みも、日独関係におけるスポーツの重要性の一例です。ホストタウンの取組みにドイツの選手たちはとても感謝しています。

ドイツではスポーツを指して、「世界で最も素晴らしき添え物」という言い方をします。その「素晴らしき添え物」が、いま、大変な試練に立たされています。アスリートたちの練習・トレーニングは当分の間大幅に縮小され、試合や大会は中止・延期を余儀なくされています。青少年から高齢者までの一般向けのスポーツ講習、地域スポーツクラブのイベントや遠足が中止なるばかりか、フィットネス・レッスンされキャンセルされる状況です。

ただ、プロ・アマチュア問わず、人と人をつなげ、私たちを前向きな気持ちにさせてくれる、そんなスポーツの良さは今後も変わることはありません。ですから、現在の状況は、逆にスポーツに関わる人々の結束を強め、コロナ収束の折にはアスリート、スポーツ団体関係者、ファンが一体となり、スポーツを再び盛り上げようという気運が大きく高まることでしょう。

そのときまで、皆様、どうぞ健康に気をつけてお過ごし下さい。

イナ・レーペルドイツ駐日ドイツ大使

ドイツ語で応援しよう！

Toi Toi Toi! トイトイトイ!

こちらはドイツの「おまじない」の言葉で、「頑張れ」という意味や、励まし、応援などの意味が込められています。願い事があるときに「トイトイトイ! (toi toi toi!)」って言いながら両手で握りこぶしを作って机とかを叩いたりするのです。由来としては元々「トイトイトイ!」は魔除けの言葉だったそうで、「トイ (toi)」は悪魔の「トイフェル (Teufel)」からきてるという説もあります。ただし、つばを吐くという行為は失礼だからという理由で、そのつばを吐く音に似せて「トイトイトイ」って言うようになったとも言われています。

ドイツとスポーツ

ドイツではスポーツが大人気！

グラウンド、体育館、スタジアム、森の中、雪や氷の上…ドイツでは2人に1人が定期的にスポーツをしています。また、週末にサッカーやハンドボール、テニス、バレーボール、体操やその他の試合を現場で観戦する人が数万人、テレビ観戦をする人に至っては数百万にのぼります。なかでも群を抜いて一番の人気を誇るのはサッカーです。全国のサッカー協会・クラブの上部組織、ドイツサッカー連盟は約700万人の会員を擁し、他のスポーツ組織の追随を許しません。会員数2位はドイツ体操協会（490万）、3位はドイツテニス協会（140万）です。

ではドイツ人はスポーツの何にそれほどの魅力を感じているのでしょうか？

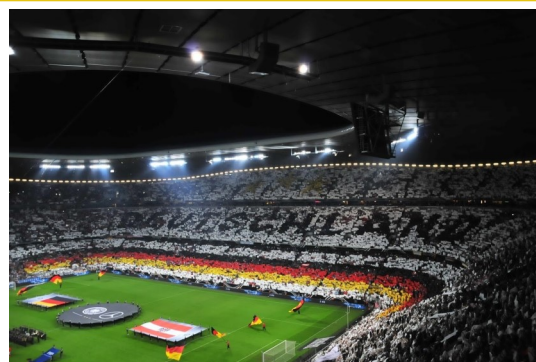
答えは色々あり、代表的な理由としては、健康を増進し日々のストレスを解消してくれる点や、社会各層の間に架け橋を築き、出会いや繋がり、時には友情をもたらしてくれる点が挙げられます。

それに、何よりもスポーツは楽しい。観るだけでも楽しいのです。

サッカーでゴールを逃した時のあの悔しさ、マラソンの最中の苦しさ、バスケット残り1秒でのシュートにエキサイトし、勝利・敗北し共に流す涙…

嬉しさであれ悔しさであれ、スポーツがこれほど素晴らしく、忘れがたい瞬間をもたらすのは、そこに感動があるからです。

そのような瞬間は、東京オリンピック・パラリンピックでも大いにあるに違いなく、誰もが楽しみにしています。スポーツの国ドイツでもオリンピックに向け、既に熱い期待が高まっています。



©German Embassy Tokyo

ドイツ大使館とホストタウン

今年のドイツ大使館の仕事では、大きな目玉となるイベントが二つもあります。日独交流160年と東京オリンピック・パラリンピック競技大会です。この二つのイベントは、それぞれ別個のものですが、本質的なところでいくつかの共通点があります。両者ともに、理解と交流、協力と支え合いが大切な要素だからです。

すでに、オリンピック・パラリンピック大会の開催前から、ドイツと日本の協力がいかにうまく



いっているかは、ドイツの「ホストタウン」として名乗りを挙げてくださった各自治体の熱心な取組みに現れています。全国で25の自治体が、政府の呼びかけに応じドイツチームの「ホストタウン」として、オリンピック・パラリンピック大会に向け、日独のスポーツ交流等の取組を進めてくださっています。

たとえば新潟県上越市は体操競技チーム、兵庫県豊岡市はボート競技チーム、徳島県徳島市ではカヌー競技チーム、熊本県熊本市は競泳チーム、福岡県田川市は車いすフェンシングチームと、各地で事前キャンプが実施され、双方の高い関心のもと温かい交流が行われています。他にも、異文化交流セミナー、料理教室等、ホストタウンは相互理解増進のための様々な取組を行ってくださっています。

ドイツ大使館・総領事館は、ホストタウンの活動に対する支援に当初から力を入れ、オリンピック・パラリンピック大会開催前のホストタウンミーティングをすでに複数回実施しています。私たちの行動や今後の計画立案に大きな制限がかかっている現状のようなときであっても、パートナーである関係者の方々との協力は大切にしていきたいと思っています。

このような状況下で、異文化間のコミュニケーションをどのように実現していけるかを、上越市は市内の小学校とドイツの学校をつないで行ったオンライン交流の実施で見せてくれました。オンライン会議は直接交流の代わりにはならないと私たちにも分かっています。しかし今のようなときは少なくとも活用できる手段です。このことから、ドイツ大使館では、日独交流160周年についても、オリンピック・パラリンピック大会についても、SNS（※）やオンライン・イベントを積極的に活用していきたいと思っています。

 [@GermanyInJapan](https://twitter.com/GermanyInJapan)

 [ドイツ連邦共和国大使館・総領事館](https://www.facebook.com/GermanyInJapan)

 [@GermanyInJapan](https://www.instagram.com/GermanyInJapan)



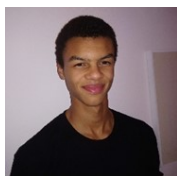
ドイツスポーツユース代表挨拶

皆さん
こんにちは！ドイツ・スポーツユース代表（ドイツ青少年スポーツ団）のキルステン・ハーゼンブッシュです。
東京では1964年、初めてオリンピックが開催されました。
当時の東京オリンピックは、ドイツと日本がスポーツ少年団最初の交流を行うきっかけにもなりました。その後少年団と指導者の定期交流が行われるようになり、これまで日独スポーツ少年団同時交流に参加した青少年の数は1万人以上にのぼります。
そして2020年、東京での2度目のオリンピック開催に向けて、日独交流だけでなく、若く優秀で社会貢献に熱心な団員たちが、オリンピックの雰囲気を経験するとともに異文化に触れてスポーツ交流も行うという趣旨の下、日本で「日独ユースキャンプ」が行われる予定でした。
そこにコロナが発生し、2020年の東京オリンピックは延期になり、「日独ユースキャンプ」も中止せざるを得ない状況に至りました。
しかし2021年は再トライの一年です。
様々なシナリオを検討し、綿密かつ辛抱強く、コロナでも東京オリンピックを成功に収めようという、関係者や皆様の準備と努力は世界の反対側のドイツにもひしひしと伝わっています。私たちも今年こそユースキャンプを日独で成功させようと懸命です。そして、今年こそ皆様と東京で再会したいと思っています。素晴らしい国、日本での再会です。
この目標の実現に向けて私たちドイツ・スポーツユース代表は積極的に取り組んでいきます。
皆様と東京でお会いすることを楽しみにしています。



大会を心待ちにしている子供たちへ！

「スポーツは私たちを結ぶ」をテーマに1973年よりドイツスポーツユース代表は日本スポーツ少年団と日独同時交流を行っています。毎年125名の団員がお互いの国へ渡り、人々と交流したり、文化を学んだりしています。今までに1万人以上の団員と指導者がこの交流に参加しました。そして今年は東京オリンピック・パラリンピック2020に向けて日独ユースキャンプが予定されています。その参加者の声を紹介いたします（メッセージは昨年頂いたものです）。



待ちに待った東京2020！楽しみにしているのは、三つ。オリンピックで様々なスポーツ観戦（特に新競技）、日本の文化に触れること、そして温泉でくつろぐことです。たくさんの新しい友達ができ、少し日本語を学べたらいいな。ちなみに教えてほしいのは、日本での挨拶。君たちも友達同士で握手とかグータッチする？それともやっぱりお辞儀？

Rio Grumbrecht (リオ・グルムブレヒト 17歳)



東京でオリンピックを体験するのは凄い楽しみ。私にとってこれは本当に大きな出来事なんだ。様々な人に出会うこと、それと君たちの国や文化を知ることがきっと最高の思い出になると思う。

Antonia Beck (アントニア・ベック 16歳)



こんにちは皆さん。ドイツからご挨拶いたします！オリンピックはアスリートにとってとても大切な大会ですから、無事に開催されるように祈っています。来年に皆さんとお会いしオリンピックの雰囲気を楽しみ、そして共に色々な体験が出来たら嬉しいです。

良いお年を！来年東京でお会いしましょうね！

Mareike Hümmerich (マライケ・ヒュメリッヒ 18歳)



東京2020大会と日本には期待してるよ。オリンピックの雰囲気を感じ、そして同時に日本の文化に触れる事は凄い楽しみ。

Hannes Kuntermann (ハネス・クンターマン 18歳),
Mattes Kuntermann (マテス・クンターマン 17歳)

こちらのニュースレターはウェブで見ることができます！
今後も更新していきますので、楽しみに！



オリンピック・パラリンピック準備局HP (ホームページ)

<https://www.2020games.metro.tokyo.lg.jp/taikaiyunbi/kanren/embassies/index.html>